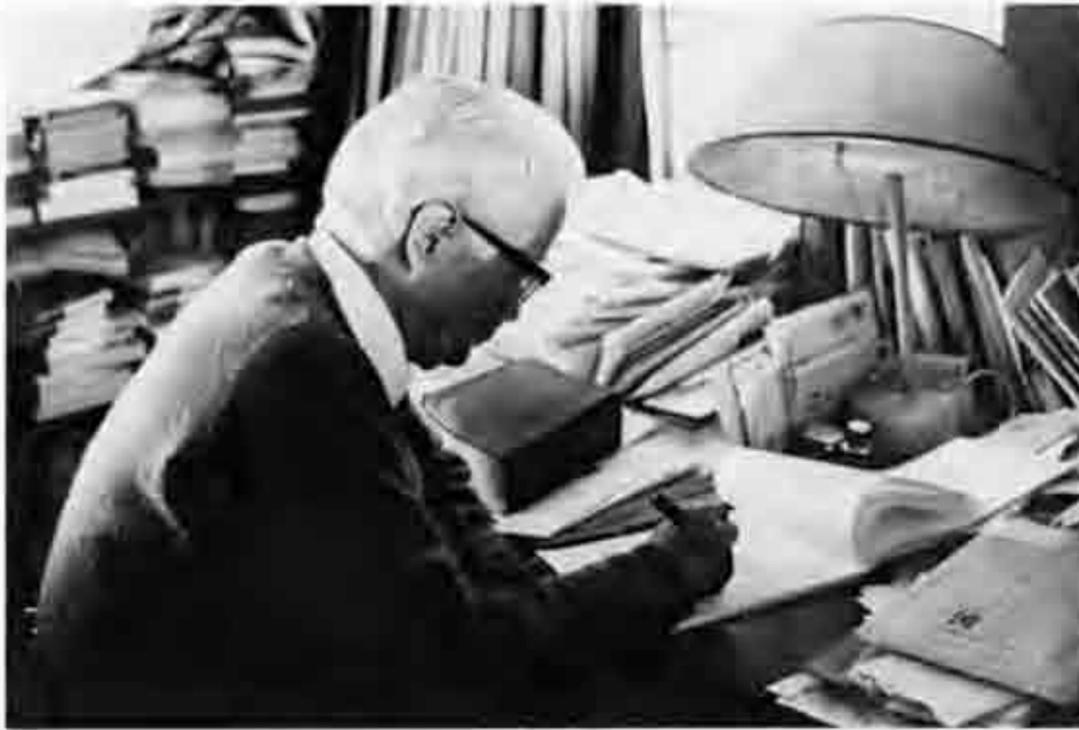




お祝いのことは



昭和55年4月19日、沼津市公会堂で、芹沢光治良先生に「名誉市民称号」が贈呈されました。先生は、文学、教育、文化の発展に多大の貢献をなされ、市民の尊敬を集められています。この栄誉は、先生のご功績を讃え、市民の誇りとするものです。



書齋にて

## 故郷沼津

芹沢 光治良

私は旧制の一高に入学して故郷を去って以来、故郷はないものとして、棲むところを常に故郷だと考えて生きた。

東京では東京を故郷とし、パリではパリを故郷として暮らした。そんな淋しい私の心を、後年中学校の先輩のO氏が故郷に向けさせてくれた。そのとき私は六十歳だったが、故郷の豊かな自然、美しい風物、明るい光が、私の性格をつくっているばかりでなく、私の文学の基本をなしていることに初めて気付いて驚き、故郷を有難いものとして頭を垂れた。そう言えば、三十歳頃、死病をスイスの高原で闘っていたとき、少年の日、大瀬崎から仰いだ荘厳な富岳や牛臥山頂で向きあった優しい富士が、しばしば臉に浮んでは、生きて還るんだと激励したことも忘れられない。

(昭和五十五年三月二十九日)

### 「故郷沼津」

『名誉市民称号贈呈式パンフレット』寄稿 昭和55(1980)年4月19日 沼津市

光治良は数々の功績を称えられて、昭和55年に沼津市の名誉市民に選ばれ、4月19日に沼津市公会堂で贈呈式が行われた。その際に配られた冊子に寄稿した随筆で、故郷沼津への感謝を綴っている。